

## 令和4年度 県立 境 高等学校 自己評価表

目指す 学校像	<p>本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する学校づくりを行う。</p> <p>(1) 「生きる力」を身につけ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本を身に付けさせる学校</p> <p>(2) 進路指導を充実し未来を切り拓く力を育成しながら、幅広い希望進路を実現させる学校</p> <p>(3) 規律を遵守する精神と望ましい生活習慣を確立させる学校</p> <p>(4) 保護者・同窓会・地域と連携して生徒の健全育成に努める学校</p> <p>(5) グローバル人材の素地となるスキルと感性を培う学校</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>例年、進学・就職を含めた進路達成状況は、ほぼ100%であり、生徒の進路実現に十分貢献することができている。今年度は私立大学の延べ合格者数が208名で、昨年度より増加し、国公立大学でも千葉大学・宇都宮大学・茨城大学など10名合格で、わずかながら増加した。</p> <p>本校生の進学先の希望は、就職・専門学校から国公立大学にまで及ぶため、すべてに対応できるような、きめ細やかな進路指導が求められる。今後は生徒の学力の向上とともに、生徒が自ら進路実現への課題を見つけ、解決できるような力を伸ばす指導も必要であると思われる。</p> <p>一方部活動においては、多くの部が熱心に活動し、高校生活に活気をもたらした。なかでも、サッカー部が選手権大会県ベスト4に進出し、周囲の耳目を集めた。今後も継続して部活動の発展に尽力したい。</p> <p>生徒指導に関しては、マナーアップ週間を毎月設けて服装容儀指導の強化や交通ルール等の規範意識の向上に努めている。今後も自転車・バイク通学者の違反・事故の指導に力を入れていく。</p>	1 「常に考える」生徒の育成	<p>① 授業の工夫・改善に努め、読解力と思考力を育み能動的に学ぶ力を養う指導に取り組む。</p> <p>② チャイム着席を励行し、授業時間の確保に努める。</p> <p>③ 各教科の授業研究（授業公開等も含む）及び相互授業参観を積極的に推進する。</p> <p>④ 学習評価を研究するとともに、効果的な教育課程編成を進める。</p>	B
	2 初志貫徹の進路設計・進路実現	<p>⑤ 進路情報の収集と適切・的確な提供をしつつ、効果的な進路指導に努める。</p> <p>⑥ 大学等と積極的に連携し進路意識の高揚を図る。</p> <p>⑦ キャリア教育の充実を図り、自己理解の深化と早期の目標設定ができることを目指す。</p> <p>⑧ 面談等を通して生徒の志望と個性・特性を見極めた適切な進路指導に努める。</p>	B
	3 正しい生活習慣の確立	<p>⑨ 基本的生活習慣の涵養に努める。</p> <p>⑩ 服装・頭髪・容儀指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」を推進する。</p> <p>⑪ 個別面談や教育相談を通じて生徒理解に努め、生徒との信頼関係構築に努める。</p> <p>⑫ いじめ等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。</p>	A
	4 学校生活の充実と「豊かな心」の育成	<p>⑬ 健康教育の推進に努め、心身の健康及び安全の維持・増進を図る。</p> <p>⑭ 生徒会活動・部活動及び各種ボランティア活動など生徒の自主的・自発的な行動を積極的に支援する。また、それらの活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む。</p> <p>⑮ 運動部活動・文化部活動の振興を図り、部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努める。</p> <p>⑯ 読書活動を積極的に推進し豊かな人間性を培う。</p>	B
	5 地域に信頼される学校づくり	<p>⑰ P T A活動を充実させ、家庭教育の重要性の理解・啓発に努める。</p> <p>⑱ 保護者や地域住民等への授業公開を積極的に推進する。</p> <p>⑲ 近隣中学校や地域への広報活動及び連携強化を図る。</p> <p>⑳ 近隣小学校・中学校等への学習支援活動に積極的に取り組む。</p>	A
	6 学校の働き方改革	㉑ 多岐にわたる業務の精選、組織化に取り組み、超過勤務時間縮減に努める。	B

三つの方針		具体的目標	評価	次年度への主な課題	
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○境高校「5つのモットー」 1 予測困難な時代を生き抜く生徒 2 自己の未来を切り拓く生徒 3 規律を遵守し、規則正しい生活を送る生徒 4 豊かなコミュニケーション能力を身に付けた生徒 5 世界や地域の課題を、協働しながら自らの力で解決する生徒	A	B 変化に富んだ時代に、自ら考え、周りとの連携を取りながら生き抜くための能力・人間力をさらに磨き上げる。 基礎的な学力を身につけさせるとともに、それを自己実現につなげるために積極的に行動できるための指導 校訓に表される生徒を求めているが、部活動だけでなく、進路や学習状況などの情報を周りに周知し、本校についてより知ってもらうことが必要。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○境高校「5つの柱」 1 キャリア教育の推進 2 英語教育の充実 3 基礎学力の向上 4 進路指導の充実 5 学力・適正等に応じた指導	B		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○境高校「4つの心」 1 「誠実」何事にも誠実に向きあう生徒 2 「剛健」文武不岐の精神を有する、剛健な生徒 3 「協心」仲間と一緒に協働しようとする生徒 4 「力行」日々努力し、自ら未来を切り拓く生徒	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
教科指導 (教務)	授業時間の確保	チャイム着席を励行し、授業時間の確保に努める。 ①②	A	A ・授業時間確保のための行事の精選 ・指導と評価の一体化を意識した授業改善の推進。	
		定期考査・学校行事等に伴う授業日数の曜日に関する不均衡を是正するよう配慮する。 ②	A		
		行事を見直し、授業時間確保に努める。 ②②	A		
	特色ある教育課程の編成と運営および学力の向上	生徒に身に付けさせたい能力などを明確にし、生徒の多様な進路に応じた教育課程を編成する。④	A		
		「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ①③	B		
教科	国語	基礎学力の向上を図る	小テスト・プリントなどを利用して、学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習を実施し、基礎学力の向上及び定着を図る。 ①	A	A ・書く力と、その基盤となる語彙力の育成。 ・読書活動の推進。 ・ICTの活用。
			生涯にわたって学び続けるために基礎基本を身につけさせるとともに、図書部との連携も図りながら読書活動を推進する。 ⑩	B	
	家庭学習習慣の定着に努めるとともに実践的な力を養う	課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ①③	A		
		課外授業を実施し、さまざまな進路に対応できる実践的な力を養う。 ①	A		
	分かる授業を展開するために改善に努める	教科内での授業研究や、各種研究会への積極的な参加を通して、授業内容や方法の改善に努める。①③④	A		
		生徒自らが課題を持って能動的に取り組む授業環境を整え、読解力と思考力を育めるような発問や学習課題の工夫を図る。 ①③	B		
教科	地歴公	わかりやすい授業の展開を工夫する。	副教材、その他の資料を活用し、生徒が具体的なイメージを持ちやすい授業を展開し、社会問題に対する関心を高める。 ①③	A	A ・3観点の評価を意識した授業の進め方、小テストの実施、定期考
		基礎学力の着実な定着をはかる。	小テストや課題を実施し、新しい知識や考え方の定着をはかる。 ④	B	

別紙様式2 (高)

	民	実践的な力を養う。	模擬試験等を有効活用し、大学進学に対応できる実践的な力を養う。 ④⑧	A		査の在り方を見直す必要がある
教科	数学	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、授業や評価の工夫に努める。	学習に対する意識や基礎学力を正確に把握し、個々に応じ適切に指導する。 ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テストを意識した授業内容や教材研究の強化。</li> <li>・ICT機器の活用。</li> <li>・数学的活動を取り入れた授業を行う。</li> </ul>
			ICT端末等を活用するなど、教科指導の工夫により、わかる授業を展開し、毎日の授業に集中させる。 ①	A		
			教材や授業活動の工夫、評価法などを教科内で意見交換する機会を増やす。 ③④	B		
		事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度を育てる。	数学的な見方や考え方の良さが実感できるような教材の精選と授業内容の工夫・改善を図る。 ①	B		
			課外授業で問題演習の時間を多くとり、高度な数学の技術を身に付けさせる。 ③	A		
			各種研修会に積極的に参加したり、大学入学共通テストに向けての問題を教科会で発表したりすることで、自己研鑽に努める。 ③	B		
教科	理科	基礎学力の向上を図るとともに、特に理系コースの進学に対応した指導を目指す。	定期的な小テスト等により、生徒の理解度を把握することに努め、不十分な生徒へは補習等実施する。 ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣のない生徒への手当て。</li> <li>・ICT機器の活用。</li> <li>・課外の内容の見直し。</li> <li>・教科横断的な実践。</li> <li>・実験の回数を増やす。</li> </ul>
			課外等で大学進学に十分対応した学力を身につけさせる。 ①	B		
		興味・関心を持てる授業に努める。	教材や授業内容・指導方法について教科内で定期的に研究協議する。 ③	B		
			各種研修会に参加し、教科内で内容を共有するとともに自己研鑽に努める。 ③	A		
実験実習を取り込み、授業理解の手助けをする。	実験実習を計画的に実施し、授業内容の理解を深める。実験内容・方法について教科内で検討し、改善を加えていく。 ①	A				
教科	保健体育	健康・安全についての理解を深めさせ、自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。	生活習慣、喫煙・飲酒、薬物、交通事故、性行動、環境問題、福祉問題、感染症などについて、より身近な問題として実感できるような教材（インターネットの活用・時事問題等）を提供することによって、自己や周囲を取り巻く健康問題について考える力をつけさせる。 ①④⑬	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の工事のため、難しい運営だった。授業時間の確保を工夫していきたい。</li> <li>・健康の保持増進と、楽しさや喜びを味わわせる展開を目指したい。</li> </ul>
			生徒の基礎体力の向上を図る。	体ほぐし運動・体づくり運動を積極的に取り入れることにより、基礎体力の向上を図る。 ①②⑬		
		生徒が運動・スポーツの楽しさや喜びを実感できる授業展開に努める。	いろいろな種目を体験させることにより、「マイ・スポーツ」の獲得を実現させる。 ①	B		
			クラスマッチと関連させ、チームの編成や役割分担、勝つための練習の工夫など自立した取り組みへの支援を行うことで、生徒により質の高い競技会を体験させる。 ①⑭	A		
教科	芸術	主体的な表現活動に必要な基本的知識・技能の定着を図る。	基本的な演習等を継続的に取り入れることで、幅広い領域における表現活動の質を高められるようにする。 ① ③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き、生徒一人一人が学習者としての尊厳を実感できる授業づくりをしながら、発見や喜びを分かち合える授業の可能性に挑戦する。</li> </ul>
		評価規準を明確に設定し、客観的評価の方法を追求する。	ワークシートの活用や活動の観察評価等の記録を充実させることにより、評価規準を踏まえた観点別評価を実施する。指導と評価の一体化を目指し、生徒の表現意欲や表現能力を引き出すための工夫と評価規準の設定をする。 ④	B		
		生徒の実態にあった教材の精選や指導法、授業展開方法を研究する。	生徒の表現意欲を高めるための授業展開方法を常に模索し、生徒が興味関心をもって取り組むことができる教材の精選や教材作成に努める。 ③	A		
教	英	基礎学力の定着を図る。	小テスト、ノートチェック等を利用して学習の理解度を把握し、個々の生徒に応じた指導を行う。 ①③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検全員受験に対し</li> </ul>

別紙様式2 (高)

科	語		学習内容の定着のために、教材を精選し、授業内容の工夫・改善を図る	①②	B		ての方策の確立 ・ICTを活用し活動を評価する場面を作る。 ・上・中位層をどう増やすか。 ・ALTの授業外での活用法
			ICT端末等を積極的に利用し、4技能に対応する基礎的な力を身につけさせる。	①	B		
		家庭学習習慣の確立に努める	担任との連携を含め、週間課題等を利用して、家庭学習時間を確保するための指導を徹底する。	③	A		
		生徒の習熟度に応じて、より高度な英語力の育成を目指す	課外などを利用し、徹底した問題演習により、上・中位層の増加を図る。	①	A		
			実用英語検定試験受験などを契機に、資格試験に前向きに取り組ませるとともに、英語学習へのモチベーションを高める。	①③	A		
		ALTを積極的に活用し、コミュニケーション能力を高めるとともに、異文化への興味・関心を深める。	②	B			
教科	家庭	「生活者」としての自立を目指し、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。	定期考査・実技・小テストにより、理解・定着度を把握し、不十分な生徒には補習を実施する。	①	B	A	・実習ができない状況が続いているため、指導方法を工夫して実施する。 ・「生活者」として自立を促せるような教材を考える。
			学習したことを日常生活に生かせるような課題やホームプロジェクトの実践をさせる。	①	A		
			授業のワークシート・課題レポートを定期的に点検する。	①	A		
		実験・実習を中心とした授業を展開し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	授業で理解した知識を元に協力して実験・実習に参加できるように指導方法を工夫する。	①④	A		
			常に生徒の興味・関心を高めるような教材作りを心掛ける。	①	A		
			指導方法の工夫を図るため各種研修会に参加し、様々な角度から自己研鑽に努める	③	B		
教科	情報	基本的な知識と技術を身につける。	人や新聞、本、情報通信ネットワーク上の資源などの活用を通して、情報の適切な収集・処理・発信のための基礎的な知識や技術、考え方を習得させる。	①③⑦	A	A	・次年度Bから教科書が変わるので、教材研究をする時間を確保し、新しい教材づくりをしたい。
			身近な題材を取り上げて、適切な表現形式を用いて効果的な作品やレポートを作成する練習をする。	①③	A		
		情報を適切に処理し発信できる力を育成する	生徒同士が協力しあって体系的な作品を作りあげる経験をする。	①③⑤⑦	A		
		情報モラルを踏まえた判断をできるようにする。	現実に起きている事件の推移を調べるなどを通して、個人情報の取り扱いや著作権について、その行動のあり方について、いろいろな立場から考えさせる。	①③⑨⑫	B		
		作品やレポートの評価を工夫する。	生徒の提出する作品やレポートを成績に組み込む方法について、自己評価の可能性を検討するなど、工夫する。	④	B		
教務		校内の連携と教育活動の円滑化	各学年・各部・各教科との緊密な連絡調整を図り、本校教育活動の円滑化に努める。	①②③	A	A	・各学年、分掌と連絡を取り、行事やプロジェクトの円滑な運営を目指す。 ・ICTの活用による更なる業務の効率化と授業改善
		校内諸データの整理・活用および広報活動	学校全体の教務関係データの管理及び活用を図る。	③④	A		
			ホームページや学校案内等の充実をはかり、中学校・地域との連携を図る。	⑱⑲⑳	A		
		校内研修の充実	教科を超えた相互授業参観等、教科研修その他教職員の各種研修の充実、推進を図る。	①②③④	B		
教育活動円滑化のための環境整備	教材・教具・各種備品等を常に活用できるよう、適切な整備、保持、管理に努める。特にICTが活用できる環境作りに尽力する。	①②	B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	マナーアップ事業と連携し、規範意識の昂揚に努める。	⑨⑩⑰	A	A	・教員の共通理解に基づく積極的な指導体制の確立 ・交通事故を防止する	
		マナーアップ週間を意識付けとして、服装容儀指導の徹底を図る。	⑨⑩⑰	A			
		登校指導を通して、遅刻の防止・時間厳守の意識の向上に努める。	⑨⑩⑰	A			
		保護者との連携を密にし、協力して指導に当たる。	⑰	B			

		いじめ未然防止に努める。	⑪⑫	A	指導の徹底
交通安全教育の推進		関係諸機関・団体と連携し、交通安全教育の徹底を図り、事故防止に努める。	⑰⑱	B	
		ホームルームや集会等を有効に活用し、交通ルール・マナーの徹底を図る。	①⑬	B	
		自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施し、危険予知・危険回避能力の向上に努める。	⑬	A	
指導体制の確立		教職員の共通理解に基づく全校指導体制の確立を図る。	②⑩⑪⑫	A	

進路指導	学習習慣の確立	家庭学習時間の確保。進路希望調査やスタディサポートを分析し、家庭学習時間の確保を呼びかける。	⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事や模試の日程を逆算し、早期に準備・計画する。</li> <li>・模試を分析し、弱点克服のための手立てを考える。</li> <li>・境高として3年間を見据えた進路指導計画に沿って進路指導していく。</li> <li>・各学年・各教科との連携を密にする。</li> </ul>
	キャリア教育の充実	将来を見据えた系統的なキャリア教育を、LHRや総合的な探求の時間を中心に実施する。	⑤⑥⑦	B		
		進路の方向性の早期決定を目指し、進路講演会や進路ガイダンス等を実施する。	⑤⑥⑦	B		
		各種の進路情報及び資料を提供するとともに、進路室・閲覧室を開放し進路相談に積極的に応じる。	⑤⑦⑧	A		
	進学指導の充実	1学年から、平常・長期休業中の課外を実施し、入試に対応できる実力を養成する。	③	A		
		模擬試験の成績データ等を分析し、進学指導にあたる。	⑤	B		
		蛭雪学習館・閲覧室を開放し、自学自習を支援する。	①	A		
		進学意識の高揚を目指し、個人面談を積極的に実施し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	⑧	B		
就職指導の充実	企業での就業体験(インターンシップ)を実施し、労働の意義を考えさせる。	⑦	B			
	就職及び公務員試験合格のため、履歴書の書き方や面接等の指導を行う。	⑦	A			
	保護者への広報・啓発	面談資料を作成・配付する。また、保護者向け進路講演会を実施する。	⑤⑰	A		
保健	心身の健康保持・増進	健康教育の推進と保健室の効果的な運営を図る。	⑬	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症予防に関する指導の継続</li> <li>・清掃監督者の配置</li> </ul>
		防災避難訓練等を通して、生徒の安全意識の高揚を図る。	⑬	A		
		担任や学年と連携を図り、心身の健康に不安のある生徒の把握と適切な指導等に努める。	⑪⑫⑬	B		
	学習環境の整備	教室等の清掃指導や清掃監督者の要望に応じた用具の補充・管理を行う。	⑬	A		
委員会活動の支援		空調機器使用に伴う教室内の温度・湿度・二酸化炭素濃度に留意し、環境の整備に努める。	⑬	A		
		保健委員・整備委員を中心に、ボランティア活動の活性化と環境やモラルの向上に努める。	⑭	A		
特別活動	学校行事等を通じた帰属意識・協調性の涵養	生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。	⑭	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事運営等で、生徒の主体性を涵養すべく、失敗を恐れず委ねていく段階に進めたい。</li> </ul>
		校内文化祭・クラスマッチ等を通して、充実感や達成感を体験させ、責任感・クラスの連帯意識を養う。	⑭	A		
	部活動の活発化	部活動の加入率を上げるとともに、活発化を図る。	⑮	B		
		キャリアパスポート等の積極的活用を促し、生徒の自主性・自発的な活動を支援する。	⑭⑮	C		
図書	図書館利用の推進	生徒の学習活動や教員の研修がよりよく進められるよう、図書館の整備に努める。	①③⑤⑦⑯	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送委員会の在り方を考えたい。</li> </ul>
		各教科の職員との連携を密にするるとともに、生徒への利用指導の充実に努める。	①③⑯	A		
	図書委員会活動の活発化	読書会・カウンター当番活動や「ふみごよみ」の発行・図書館のレイアウトの工夫等を通じ、利用促進の広報を行う。	⑯	A		

	放送設備の整備・管理	放送・視聴覚機器の保全・管理を行い、積極的活用を図る。	⑭	B		
	放送委員会活動の活発化	集会時や校内発表会、クラスマッチ等の放送機材の設置・操作に委員会生徒を積極的に活用する。	⑭	B		
渉外	P T A行事の工夫	コロナ禍に対応したP T A行事の実施方法・内容について検討し、参加した保護者への便宜を図る。	⑰	A	B	・コロナ禍でPTA活動が困難な中、見直しが必要な事業がある。コロナ禍後も事業の精選が必要である。
	P T A活動の充実	進路講演会の開催など保護者の参加意欲を喚起するような取り組みを計画する。	⑤⑰			
		支部研修会活動にも協力し、研修の成果を全体へ伝達する。	⑰			
	P T A活動を通して家庭・地域社会との連携を図る。	生徒指導部との連携を図り、生徒指導委員と登校指導・校外巡視を行い、生徒の実態把握を図る。保護者・職員間の情報交換を行い、共通理解のもとに、協力体制を確立する。	⑨⑩⑰	B		
1年	基本的生活習慣の確立	校内オリエンテーション・HR活動・集会等を通して、規律を守る大切さを教え、規範意識の昂揚に努める。	⑨⑩	A	A	・基礎学力の向上（特に中間層の引き上げ） ・効果的な課題の提示（質と量の追求） ・課外の在り方 ・やられる段階から主体性への移行
		日常的な声かけや個別面談を通して、生徒個々に応じた指導に努める。	⑧⑪	A		
		保護者との連絡を密にして、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようにする。	⑪⑫	B		
	学習習慣の確立、学力の向上	各教科の平常時の課題や長期休業時の課題の提出を徹底させ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	①⑤	A		
		授業・HRなどで学習に臨む姿勢を意識させ、基礎学力の定着を図る。	①③	B		
	充実した高校生活を送れるようにする	授業を基本とし、模擬試験・平常課外・長期休業中の課外などを通して、学力の向上を図る。	①③	B		
学校行事・HR活動を通し、集団への帰属意識や責任感を養うと共に、充実感や達成感を感じ取らせる。		⑭	A			
		部活動や生徒会活動の参加を積極的に促し、心身ともに豊かな人間性を育む。	⑭⑮	A		
2年	基本的生活習慣の確立、生徒指導の継続・発展	規則正しい生活習慣を継続させ、規範意識の向上をめざす。HRや集会、修学旅行を通して、団体生活における規律を遵守させる。	⑨⑩	A	A	・生徒指導面では各先生方のおかげで順調に目標に向け進むことができている。一方で、学習成績面で伸び悩む生徒も多く、二極化が進んでいる。学年全体の希望進路実現に向けた環境作り・雰囲気作りをしていきたい。
		日常的な声かけや個別面談、教育相談を通して生徒理解を深め、生徒個々に応じた指導に努める。	⑧⑪	A		
		保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努め、生徒が落ち着いた学校生活を送れるような土台を作る。	⑪⑫	B		
	学習習慣の確立、学力の向上、進路意識の向上	各種課題の提出を徹底させることで家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、授業・HRなどで学習に臨む姿勢を意識させることを通して、基礎学力の定着・確認を図る。	①③	B		
		授業を基本とし、模擬試験・平常課外・長期休業中の課外などを通して、学力の向上を図る。	①③	B		
	学校生活の充実、人間的な成長	来年度のコース選択などを通して、将来の職業観を育み、進路意識の向上を図る。	⑤⑦⑧	B		
		修学旅行・校内発表会・クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加させ、集団への帰属意識や責任感を培うとともに、充実感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高められるよう導く。	⑭	A		
		部活動や生徒会活動等への参加を積極的に促し、心身ともに豊かな人間性を育む。	⑭⑮⑯	A		
3年	基本的生活習慣と社会的常識の確立	こまやかな声掛けや個別面談を通して、生徒の個に応じた指導に努める。	⑧⑪	A	B	・様々な点で多くの生徒を成長させることはできたが、学年スタッフ内あるいは学年と各校務分掌間、学習指導・進路指
		保護者との連絡を密にして、生徒が安心して学校生活を送れるようにする。	⑨⑬⑰	A		
		進学先、就職先で通用する社会的常識を身につけさせる。	⑦⑩	B		
	学習習慣の確立と集団学習意識の構築	毎時間の授業を大切にさせる。	①②③④	B		
		学習に計画性を持たせ、学習習慣を維持・発展させる。	①④	B		
		お互いが励ましあい、切磋琢磨できるような学習環境の整備に努める。	⑪⑫	B		

別紙様式2 (高)

充実した高校生活を送れるようにする	学校行事を通して集団への帰属意識や責任感を養う。それによって何が身についたのか、何ができるようになったのかが自覚できるように振り返りを行わせる。 ⑪⑭	A	導と部活動指導間のバランスを工夫し、より意見交換や情報共有を図ることで、もっと効率よく生徒へ働きかけることが求められる。
	特別活動やボランティア等への参加を積極的に勧め、心身のバランスが取れた豊かな人間性と自己肯定感を育む。 ⑦⑮	A	
	境高校が地域のシンボリック学校であることを自覚し、最高学年としてその名に恥じない高校生活を送れるようにする。 ⑱⑲⑳	A	
将来の自分の創造	生徒自身に進路希望を主体的に決定させ、目標成就のために行動をすることができる。 ⑥⑦⑧	A	
	学校生活によって、将来の自分がどう変化するかを想像させ、高校生活の価値を高め、しっかりとした目的意識を持たせる。 ⑤⑦⑭	B	

※評価基準 A：十分達成できた(今後とも積極的に推進) B：概ね達成できた(改善すべき課題がある) C：やや不十分(事業の見直しが必要) D：不十分(抜本的な改善が必要)